

俳句

大津俳句会

参道は銀杏紅葉の絨毯に
いらやうもみじ じゅうたん

井芹眞一郎

群れだちてねぐらへ急ぐ冬の鳥

相原 朋子

玄関の壺いっぱいに草の花
つぼ

一上日登美

地震あり炬燵を出してもぐり込む
こたつ

大塚喜久子

ありあまる程の小春日続きけり
こはるび

岡崎 浩子

友来たる話止まらず秋日和
あきびより

香月のり子

追ひつけぬ時の流れや師走来し

佐賀 久子

深耶馬の日暮れの早き紅葉谷
しんやば もみじだに

佐澤 俊子

俳句

つのはな句会

友からの絵手紙ほっこり福寿草

矢嶋 道子

地平線明るく照らす初茜

梅木トキエ

年の暮二両電車に客二人

塚本 洋子

ほどほどの未来をかうや福袋

榮田しのぶ

従軍碑父の名も褪せ開戦日

村田 健二

新春の流鏑馬世界の悪を射よ
やぶさめ

志賀 孝子

若水を吸んであつまる今朝の善

田上 公代

初明かり勾玉つるり夢ぼとり

上杉 波

短歌

大津短歌会・野づかさ

指導 阿木津 英

迷いなく反戦演劇貫て生終わりけり仲代達矢

小平 善行

うす紅の花咲かしめて川岸に風に揺らぐも合歓の古木は

吉永 恵子

早朝にまづすませたる拭き掃除床踏む足のこのこち良き

坂本 果子

海上の湯島にむかひて立つ地藏右手に白い十字架をもつ

鞍 岳志

仏前に夫は立ちて手を合わす座れば立つのが難しくなりて

山本 泰子

雷の音に怯える犬の小太郎が我が胸ぐらへはい登りくる

高村 貴子

あるけた、動ける足を動かして晴天見上ぐ冬まじかの日

吉田 良子

あかあかと熟していけど採らぬまま庭に落ちたり柿の実三つ

本田 咲

ご長寿の表彰うけし飼い犬に引かれながらに歩く畔道

田中 玲子

庭に咲き風にさゆらぐコスモスは朝のひかりに鮮しく見ゆ

豊岡ミツル